

Check

ネット
(カエマ) (画像)

電商品のプレゼント企画などを行う。

サイト開設の狙いと展望



ジェネレーションパスの岡本洋明社長(写真)に新サイト開設の狙いを聞いた。

競合が増えて価格競争になるが、ここであれば安心してブランドイメージを確保できる。

オムニチャネルが一つの力ギとなる。

「このアプリで特徴的なのは、顧客が普段使っている最寄りのファミリマート店舗を『マイショップ』として事前に登録できる機能があり、サイトで購入した場合はその店舗に対してキックバックが入る仕組みになっている。リアルとデジタルの接点をいかに持つていくかというトライになる。

また、自社でシステム開発ができるので、モール内で何か決まった雛形のページレイアウトに統一するのではなく、出店者ごとに合わせたブランドのレイアウトにすることもできる。我々も(複数の他社)モールに出店しているので出店者の立場はよく分かる。『モール内でA社がキャンペーンをやるからB社さんも同じようにやって』ということはない。どのようなキャンペーンをやるかは1社ずつ最適な形を話し合っている。

ファミリマート店舗は1日に1500万人が利用しており、それだけの顧客とのタッチポイントがあって、そこにデジタルを挟めば新しい市場が生まれる。日本のEC市場は実は寡占化が進んでいるように進んでいる。確かに(大手2強の)アマゾン、楽天は伸びているが、それ以外のところも伸びている。

ファミマと連携の新サイト

今秋にモール化、大手小売を誘致

「まずは



新宿区、岡本洋明社長)は7月1日、コンビニエンスストアのファミリマート(同・東京都豊島区、澤田貴司社長)が開始したバーコード決済付きスマートフォンアプリ「ファミマ」と連携した通販サイト「Kaema」

品や季節に合わせた特集を定期的な企画するほか、ライフスタイルに応じたコラムなども掲載。オープンとしてFamiPayが10倍になる内容や、家

立ち上がり時点ではジェネレーションパスのEC取扱商品約55万点を展開し、今秋ごろをめどに仮想モール化を図る考え。これまで外部のECチャネルをあまり活用していないような大手流通小売企業を軸に誘致交渉を進めており、まずは各商品ジャンル

「まずは」ジェネレーションパスの岡本洋明社長(写真)に新サイト開設の狙いを聞いた。

また、自社でシステム開発ができるので、モール内で何か決まった雛形のページレイアウトに統一するのではなく、出店者ごとに合わせたブランドのレイアウトにすることもできる。我々も(複数の他社)モールに出店している

ファミリマート店舗は1日に1500万人が利用しており、それだけの顧客とのタッチポイントがあって、そこにデジタルを挟めば新しい市場が生まれる。日本のEC市場は実は寡占化が進んでいるように進んでいる。確かに(大手2強の)アマゾン、楽天は伸びているが、それ以外のところも伸びている。

成長に向けては

品や季節に合わせた特集を定期的な企画するほか、ライフスタイルに応じたコラムなども掲載。オープンとしてFamiPayが10倍になる内容や、家

立ち上がり時点ではジェネレーションパスのEC取扱商品約55万点を展開し、今秋ごろをめどに仮想モール化を図る考え。これまで外部のECチャネルをあまり活用していないような大手流通小売企業を軸に誘致交渉を進めており、まずは各商品ジャンル

「まずは」ジェネレーションパスの岡本洋明社長(写真)に新サイト開設の狙いを聞いた。

また、自社でシステム開発ができるので、モール内で何か決まった雛形のページレイアウトに統一するのではなく、出店者ごとに合わせたブランドのレイアウトにすることもできる。我々も(複数の他社)モールに出店している

ファミリマート店舗は1日に1500万人が利用しており、それだけの顧客とのタッチポイントがあって、そこにデジタルを挟めば新しい市場が生まれる。日本のEC市場は実は寡占化が進んでいるように進んでいる。確かに(大手2強の)アマゾン、楽天は伸びているが、それ以外のところも伸びている。

成長に向けては